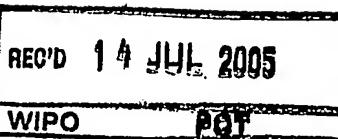


特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）



(法第 12 条、法施行規則第 56 条)
〔PCT 36 条及び PCT 規則 70〕

出願人又は代理人 の書類記号 WA-0912	今後の手続きについては、様式 PCT/IPEA/416 を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/005104	国際出願日 (日.月.年) 09.04.2004	優先日 (日.月.年) 11.04.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. ⁷ A61K35/78, A61P5/06, 15/08, 15/12, 29/00, 35/00		
出願人（氏名又は名称） 松浦薬業株式会社		

1. この報告書は、PCT 35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第 57 条 (PCT 36 条) の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。

3. この報告には次の附属物件も添付されている。

a. 附属書類は全部で ページである。

指定されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙 (PCT 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)

第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙

b. 電子媒体は全部で ページである。
(電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するデータを含む。 (実施細則第 802 号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

第 I 欄 国際予備審査報告の基礎
 第 II 欄 優先権
 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
 第 IV 欄 発明の単一性の欠如
 第 V 欄 PCT 35 条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 第 VI 欄 ある種の引用文献
 第 VII 欄 国際出願の不備
 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 26.08.2004	国際予備審査報告を作成した日 30.06.2005
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 鶴見 秀紀
	4C 8415
	電話番号 03-3581-1101 内線 3452

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

この報告は、_____語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
 PCT規則12.4にいう国際公開
 PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

出願時の国際出願書類

明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
第 _____ ページ*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ ページ*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
第 _____ 項*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ 項*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
第 _____ ページ/図*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ ページ/図*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. 補正により、下記の書類が削除された。

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表(具体的に記載すること) _____
 配列表に関するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかつたものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表(具体的に記載すること) _____
 配列表に関するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1—6	有
	請求の範囲 7—10	無
進歩性 (I S)	請求の範囲 1—6	有
	請求の範囲 7—10	無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 1—10	有
	請求の範囲	無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1 : JP 2813471 B(山之内製薬株式会社)1998.10.22
 文献2 : JP 2000-281584 A(山之内製薬株式会社)2000.10.10
 文献3 : JP 11-116498 A(山之内製薬株式会社)1999.04.27
 文献4 : Tierärztliche Umschau, 1996, Vol. 51, No. 6, pp. 371-375. (abstract) BIOSIS[online] STN, AN. 1996:366825, DN. PREV199699089181
 文献5 : J. Neuroendocrinology, 1995, Vol. 7, No. 5, pp. 387-392, abstract, Table 1
 文献6 : 東洋医学, 1997, Vol. 25, No. 10, pp. 56-58
 文献7 : JP 2003-510344 A(ドラッグテック コーポレーション)2003.03.18
 文献8 : 日本東洋医学雑誌, 2001, Vo. 51, No. 6, p. 205
 文献9 : J. Duijzer Sci., 2003, Vol. 86, Suppl. 1, p. 12.
 文献10 : 日本不妊学会雑誌, 1985, Vol. 30, No. 2, pp. 156-162
 文献11 : WO 98/44005 A1(財団法人 漢方医薬研究振興財団)1998.10.08

上記文献3には、南瓜子、紅花、オオバコ、及びスイカズラを有効成分とするマクロファージ活性化剤が記載されているので、請求の範囲7～10に記載された健康食品または機能性食品の発明は、新規性及び進歩性を有しない。

上記文献1～11のいずれの文献にも、請求の範囲1～6の南瓜子、紅花、オオバコ、及びスイカズラを、卵胞刺激ホルモン減少剤とすることが記載されておらず、かつ、そのように構成することは当業者といえども自明であるとも認められないので、請求の範囲1～6の発明は、新規性及び進歩性を有する。